

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0592200083		
法人名	有限会社 総合建設		
事業所名	グループホームいしくら		
所在地	秋田県山本郡三種町森岳字高田21-7		
自己評価作成日	平成30年8月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成30年9月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2つのユニットのホールの広さ、各棟は、玄関、事務所、台所を挟み繋がっており、入居者様が、行き来できるようになっている。各棟には、大型のテレビが2台ずつ設置されており、入居者様は、それぞれの観たい番組を観ているように感じ取れる。また、背もたれの長いソファも各棟の随所に置き、仲の良い入居者様が一緒に座り、会話を楽しんでいるように伺える。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

各ユニットのホールは広々としており、車いす利用の方々も自分で行きたい所に行くことができ、自由度も高く、天窓からは外光が降り注ぎ、利用者が思い思いに過ごせる明るく開放的な空間となっている。また2つのユニットは、間に事務所などを挟んで繋がっており、行き来もでき、職員が暮らしの中に気分転換の機会を考えた2ユニット合同のプログラムなども時々行っている。また、それぞれのユニットに大型のテレビが2台ずつ置かれ、利用者の状況に応じて、過ごす場所を選べることも大きな利点となっている。屋外には畑もあり、それを媒介として職員との会話が持たれたり、収穫した野菜が食卓に彩を添えたりと、普段の暮らしに役立っている様子がうかがわれる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関やホールに理念を書いた紙を貼り、みんながいつでも見られるようにしている。	理念は、職員全員で自分の考えを出し合った中からまとめ上げられており、それぞれの思いが盛り込まれていることから、自分たちの理念として意識されており、日々の実践に生かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	年に一度地域の中学校から職場体験に来られたりしている。要望があれば高校生の就業体験も受け入れている。	ホームの近くには中学校もあり、職場体験を受け入れたりしている。町に登録しているボランティアの方々から直接声がかかったり、家族の申し出などで、様々な催し物を開き交流の機会としている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議で、地域の方に参加協力をしてもらい、認知症への理解を深めてもらえるような話し合いの場を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	イベント等での写真や状況を運営推進会議で報告し、出席者の意見等を聞き、今後のサービス、支援の向上に努めている。	ホームの日頃の様子を会議で報告し、意見ももらっている。会議には利用者の代表も出席し、当事者として話を聴く機会が設けられている。家族の参加がなかなか得られない状況が続いているが、働きかけを継続しているところである。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居の相談や入居されてからの施設でのご本人の近況を電話や訪問時に報告している。	運営推進会議も活用しながら近況を伝えている。入居時の担当ケアマネとのつながりや、包括からの問い合わせなどもあり、必要時相談できる体制にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルをいつでも目を通せるように、手に取りやすい場所に置いている。	ミーティングの後にマニュアルの確認をしており、これまでに身体拘束をしたことはない。本人の気持ちを尊重し、外出の希望のある方にはドライブをしたり、散歩に付き添ったりして、できるだけ自由な過ごし方をしてもらえよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	研修、資料などで理解してもらったり、わからない時は話し合ったりして介護にあたるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を置き、目を通してもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、ご本人、家族と十分な面談をし、希望があれば、施設の見学も受け入れ、ご本人、ご家族が納得していただいての入居の受け入れを心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が遠方にいる方もおり、面会に来られない家族もいるため、	家族には面会時などに意見や要望を聞くようにしている。遠方で面会に中々来られない家族もいるが、全員に向けて定期的に近況報告を行い、アンケートも実施し意見を求めたところ、様々な意見が寄せられ、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時に法人代理(経理)が参加し、職員の意見などがあった場合、反映していけるようにしている。	月に一回のミーティング時に、話し合いや提言ができる機会があり、業務上の話や備品の購入などについての提言ができ、それを運営に反映させている。	自法人の運営状況や自ホームの取り組みについて、客観視する機会を持ち、職員が幅広い視点で意見を持てるよう、外部団体(グループホーム連絡協議会など)に加入することを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が不足している為ほぼ行けていない状況。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、あまり行えていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する前に本人、家族と面談やホームの見学を行い、納得してから入れるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	バックグラウンド、暮らしの情報を入所時に家族に記入してもらったりしている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	畑作業や調理の手伝いなど、個々の能力に応じて手伝って頂いている。畑作業などは利用者さんから教えていただきながら行っている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は、時間を気にせず話をしてもらい、お互いの様子などを確認したり、電話にて話をしたりしてもらっている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人などの面会時にゆっくり過ごせるように心掛けている。お盆や正月など外出されている。	利用者の希望に添ってなじみの場所に出かけたりもするが、最近ではホームが一番くつろげる場所となったためか、家族が来た時に自宅の様子を見に行ったり、食事をしてきたりするくらいになっている。知人や友人が訪ねて来た時には、十分に時間をとってゆっくり過ごしてもらっている。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の状態を把握し、レクリエーションや行事、普段の会話などで利用者同士の関係が円滑になるよう支援している。		
21		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後の経過報告もあり、家族より相談も受けていた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護記録、バックグラウンドなどの情報を参考にし、出来るだけ本人の思いなどの把握に努めている。	定期的ではないが、全利用者について職員全員で情報を交換しながら話し合う機会を設けており、一人ひとりの思いや意向の多面的な把握に努めている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に面談した事やその他情報を共有している。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録、申し送りなどで現在の状況を把握している。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは全職員にお願いし、その利用者についての意見等を聞き、介護計画を考えている。	モニタリング一覧表があり、職員全員が記入し、計画作成担当者はそれを参考にしつつ、本人や家族の希望や意見を取り入れるようにしながら、介護計画にまとめ上げている。医療的なことは主治医に相談したりもする。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況を記録し、カンファレンス時などに個々の状態を再確認し実践や計画に活かしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの訪問や地域行事への参加を増やせるように努めている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の診察が行えるよう支援している。また、相談できるかかりつけ薬局がある。	基本的には入居前の主治医をかかりつけ医として継続し、ホームで受診援助している。必要時には往診にも応じてくれるため、相談もしやすい。歯科医には往診を依頼している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職との連携はないが、かかりつけ医と連携を取り対応している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には、本人の情報を医療機関に提出し、早期退院に向けて定期的に面会し入院中の情報交換や相談も行っている。また、退院後の受け入れも行っている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時(契約時)にご家族の方に書面にて説明している。状態をみながらご家族や主治医の意見を聞き、方向性を決めていけるようにしている。	一度家族の希望に応じて看取りも経験している。主治医との連携が取ればこれからも行っていきたいと考えており早い段階で説明をしている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、全員が把握できるようにしている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力のもと年2回の避難訓練を行っている(日中、夜間想定)近隣住民にも協力をお願いしている。	隣の方が元消防士であり、運営推進委員にもなっているため様々なことを相談でき、協力を得られる関係にある。夜間の災害や、水害対策などではこれからも具体的な対応方法を考え、訓練していきたいと考えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使い、対応など、配慮している。	言葉使いは親しくなっても、なれなれしくならないように、程よい距離感を考えながら対応している。プライベートな事柄は、できるだけ他者の目や耳に入らないよう配慮している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の気持ちや思いが出しやすいようにし、普段から意思決定出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者も一緒に食事の用意、片付けなど行っている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を聞き、天気や温度などを考え、決めるようにしている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や後片付けを一緒に行っている。(野菜の皮むき、食器ふきなど)	準備や片づけを一緒に行っている。訪問日にも何人かの利用者が野菜の下ごしらえを、会話を持ちながら、楽しそうに行っていた。職員と一緒にの食事は、お互いに声を掛け合ったり、好物について話をしたりしながら和気藹藹と進められていた。職員は手伝ってもらった作業の割り振りについても、バランスよく、やらされている感や、やれない感が出ないよう気を配っている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を把握し、調理法、形態を工夫し安全に食事できるよう支援している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け、介助行っている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートなどで状況をみて声掛けや誘導を行ったりしている。	現在の利用者は、尿意もあり、本人の訴えや行動を見て適宜援助している。間隔が開けば、こちらからさりげなく声掛けもしている。便秘傾向のある方には、チェック表で確認し、飲み薬や座薬で対応支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分など注意したり、医師に相談したりしている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の入りたい日や状況を見てこちらから声掛けしたりしている。	本人の意向に添う形で支援している。入浴しながらない時には無理せず足浴や清拭で対応している。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の過ごしやすさを重視して支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報をファイルしていつでも把握できるようにしている。変更時は申し送りなどで伝えている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味や得意な事を把握し、状態や体調をみて軽作業などお願いするようにしている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい日や、本人の希望のある時など散歩やドライブなどに出掛けるようにしている。	気候の良い時には、近隣の道の駅に出かけたり、公園で花見や紅葉を楽しんでいる。全員で出かける際はレンタカーを利用したりしている。外食の機会もあり、トイレの状況などを予め確認し、利用者が楽しめるよう配慮し外出援助している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金はホームにて管理している。本人の希望があれば、職員が買いに行ったり、一緒に買い物に行ったりしている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話を取り次いだり、手紙のやり取りなど出来るように支援している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様に合った明るさ、温度、湿度等考え調節するようにしている。また、飾りつけは季節に合ったものになっている。	共用空間は広々としており、天窓からの外光が明るく室内を照らし、心地よい空間となっている。ソファでゆっくり過ごす方、好きなテレビ番組を見る方、気のあった方とおしゃべりを楽しむ方と思い思いに過ごすことができる。飾りつけなどは職員と利用者と一緒に作成し、季節感を感じてもらえるよう心掛けている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の行動を把握し、座る位置や話の合う入居者と楽しく過ごせるように見守りや支援に努めている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れているものや、好きな物など持ち込みはなるべく自由にしている。	家族の協力も得て、なじみの家具などを持ち込んでおり、本人が安心して過ごせるよう設えられている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目印や文字などで支援している。		